

PTA

やまがた

第40号

平成28年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 荒井 寛

山形市十日町1丁目6番6号

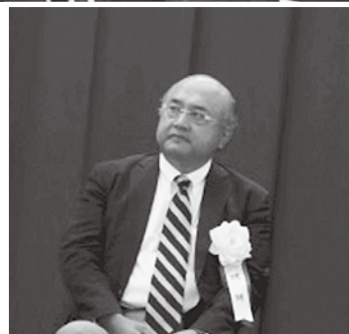
県保健福祉センター内

TEL 023(631)0055 FAX 023(635)4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023(631)5533



県P連活動スローガン

『**広げよう活動の環を つなげよう地域ぐるみの教育を**』

～次代をつなぐ子どもたちが 夢と希望を抱ける ふるさとの創造を目指して～

広げよう活動の環を

つなげよう地域ぐるみの教育を

「次代をつなぐ子どもたちが

夢と希望を抱ける

ふるさとの創造を目指して」

山形県PTA連合会会長 荒井 寛



年

度末を迎え、改めて時の流れの速さに驚いているこの頃で

すが、皆様方におかれましてはそれぞれの郡・市PTA連合会、単位PTAそして地域社会において、子どもたちを健全に育む環境づくりに鋭意取り組んでおられますことに心か

ら敬意と感謝を申し上げます。

今年度から山形県PTA連合会長の拝命を受け新たなスローガンとして「広げよう活動の環を つなげよう地域ぐるみの教育を」次代をつなぐ子どもたちが 夢と希望を抱けるふるさとの創造を目指して」を掲げ、この一年間様々な活動を展開して参りました。これらの活動に対しましても皆様方から深いご理解とご支援を賜りまして誠にありがとうございました。

さて、私たちが最も大切にしてい

る研修活動の集大成として「第六十七回山形県PTA研修大会米沢大会」が米沢市を会場にして県内各地

から九百名を超す会員の参加をえて、「ふれ愛、つたえ愛、たしかめ愛」子どもたちに夢と感動を」という大会主題のもと、盛大に開催されました。午前中の五つの分科会では、それぞれの課題に添った熱心な話し合いがもたれ、参加者はパネリストやコーディネーターとともに共感し、これからのPTA活動への想いを確かめ合うことができました。午後からの全体会では、山形大学大学院理工学研究科の城戸淳二教授より「地方創生は人材育成から」と題しての記念講演をいただきました。人材育成では、「成功体験」と「好奇心・創造力・やる気・独創性の育成」が重要であるという視点は今後のPTA活動のあり方にも大きな示唆を与えてくれるものでした。米沢市PTA連合会の皆様方の緻密な計画と連携で円滑な大会運営をしていただき、実行委員会の皆様方のおもてなしの心が伝わる温かい大会となり

ました。関係する全ての皆様方に感謝申し上げます。

また、「命の尊さ、大切さ」のテーマで継続して学び、子育ての悩みを共有しながら解決に向けた取組を続けられた母親委員会、賠償額を増額して子どもたちの不慮の事故に備えて対応した安全互助会委員会、さらには、親子の読書をとおして家族のコミュニケーションの活発化をめざして、「親子読書だより」を新たに発行した親子読書推進委員会、そして「山形方式ネットモラル講習会カリキュラム」に基づいた学習会を推進していただいたネットモラル推進委員会、いずれも昨今の教育課題に直結した重要な取組ばかりであります。このように常置委員会及び特別委員会の活動につきましても積極的な取組を推進していただきましたことに深く感謝申し上げます。

最後に、温かいご支援とご協力を頂いております山形県教育委員会様はじめ、関係各位の皆様方に心から感謝の意を表するとともに、今後ともよろしくお願い申し上げます。

「地域とつながる」人づくり



山形市立第四中学校
校長

鹿野 智

年度から「地域とつながる人」を育むことを柱とする第六次山形県教育振興計画がスタートしました。学校の統廃合が進む現在にあって、地域から信頼され、地域と共にある学校づくりを進めることは急務の課題であります。次に、家庭や地域との連携を図った本校の今年度の取り組みを紹介致します。

(1) 地域に貢献する心を育む活動
本校では生徒会活動の一環として、登校時に通学路のゴミを拾ったり、地域の方々に挨拶をするボランティア活動「四中DAY」を行っています。生徒の地域に貢献したいという思いから始まった取り組みは少しずつ根付き始めております。この活動を通して、地域に生きる者としての自覚が芽生えつつあるように思います。

(2) ネットモラル講演会の実施
県PTA連合会モデル事業と

して、十一月二十八日(土)に講演会を実施しました。当日は、学区の小学校関係者と青少年育成団体の方々の参加を頂き盛大に開催することができました。

SNSの問題は、最近の生徒指導の問題で必ず取り上げられる話題であり、小学校との連携のみならず、保護者・地域挙げて青少年の健全育成の環境を整えなければならぬ課題であります。その意味で、学校・家庭・地域の連携の一端を担った講演会を開催できたことは、大変意義深いことでした。

これからの子どもたちは、益々グローバル化が進み、人口減少の中で「地方消滅」さえも囁かれる時代を生き抜かなければなりません。いかなる時代であつても学校の使命は、家庭や地域と連携して子どもに「社会(人)に尽くす心」「故郷を愛する心」を培うことだと考えます。そのためには地域に根ざした、それぞれの学校固有の取り組みを着実に進めていくことが全国に誇る「山形の教育」の伝統をつなぐことになると思います。

県P研修大会米沢大会を終えて



実行委員長

佐藤 靖広

形県内各地より多くの来賓と九百名を超える会員の皆様にご参加をいただき第六十七回山形県PTA研修大会米沢大会を開催できましたことに、心より感謝申し上げます。

大会の開催にあたっては、県PTA連合会様、また準備や当日の運営にご尽力いただきました実行委員会の皆様にも心より感謝申し上げます。

今回の研修大会は「ふれ愛、つたえ愛、たしかめ愛」子どもたちに夢と感動をの大会主役のもと、分科会、全体行事、記念講演で構成しました。

分科会では、子どもたちの健全育成や安全、安心に関したテーマについて具体的な先進事例の発表とディスカッションを行いました。これからの未来に向けた前向きな意見交換を行い、皆様の活動に具体的に活かせる内容であり、広い視野から更なる情報交換を行って自己研鑽に

努めていたのだと思います。

記念講演は、山形大学大学院理工学研究科教授の城戸淳二様から「地方創生は人材育成から」との演題でご講演いただきました。

ご自身の子育てと教育のご経験から、親として「子どもにチャンスを与え続けることを大切にし、子どもの可能性を広げていくことの大切さ」と、「子どもとの関わりが成長過程において重要であること」を再認識する気付きの多い内容でありました。参加者アンケートでもほぼ全員の方から満足したとのご評価をいただきました。今回の研修大会の成果がそれぞれの皆様の活動の拠点であるPTAにおいて反映され、子どもたちの健全育成の活動のきっかけとなることを切に願っております。

未来を担う子どもたちが自らの知恵と行動力を発揮して、困難を乗り越え幅広く活躍できる環境づくりが重要になってきます。今私たちができることと、これから取り組むべきことを会員の皆さんと手を携えて共に学び、広く知識を身につけ実践を継続していきましょう。

山形県PTA母親委員会の活動報告



山形県PTA母親委員長
堀田 理恵

山 形県PTA母親委員会の活動を皆様に支えていただき展開できましたこと、心より感謝申し上げます。また、郡・市PTA母親委員会においても、活発に活動していただき感謝いたします。

母親委員会では、「命の尊さ大切さ」のテーマのもと、子どもたちの様子や、母として何を学び子どもに何を伝えるべきか等々、情報を交換し活動につなげてきました。母親委員研修では、山形県PTA連合会が推進している「親子読書活動」に力を入れようと、学校図書館アドバイザーの五十嵐絹子氏から「親子読書で育むもの」と題しお話を伺いました。読み聞かせを通して親子の絆が深まることや読書による感動が心

を育て想像力がつくこと、物語を通して正義や勇氣、思いやりを学ぶことができること等、読書の大切さについてお聞きしました。子どもの本離れを防ぐには家庭でも一日五分から十分、親子で読書の時間を持つべきだと感じました。

また、「ネットモラル講習会」に参加し、宮城教育大学教授の鶴川義弘氏による「子どもの携帯 持たせる前の約束と必要な設定」と題したお話を聞きました。スマホを持たせる利便性と危険性を考え、親子でよく話し合い、フィルタリングをつけることや使い方の約束を決める必要があること等大変参考になりました。トラブルが起きた場合には、子どもと一緒に解決できるよう親の知識も必要です。親も積極的に学び子どもたちがトラブルに遭わないように見守り寄り添っていききたいと思います。今後母親委員会では情報を共有し共に学び、母親同士のネットワークを大切にしながら家庭教育力の向上に努めていきたいと思っています。

各地区の活動報告

- ・《山形市》
- ・定例母親委員会 三回
- ・「親学」家庭教育研修（朝陽第一小学校視察研修）
- ・拡大母親委員会 一回

講演「親子の笑顔のために」～不登校解決への近道～

講師 菜花 俊氏

（NPO法人 親心支援協会理事長）

・「マザーズねっとわーく」No.20 発行

《上山市》

・母親委員会 二回

・研修会、情報交換 一回

講演「成長に必要な食事と栄養」

講師 鐘水弘樹氏

（徳州会病院管理栄養士）

《天童・東村山地区》

・母親委員会総会

・母の集い（講師を招いて講演会）

・「小中学生を持つ親の子育て」

講師 森谷留美子氏

・「母親委員会だより」発行

《西村山》

・定例母親委員会 三回

・研修会

・「ラフターヨガ」平 早苗氏

・代表委員会 三回

《北村山》

・北村山地区Pとしての活動はないが、村山市P、尾花沢市P、大石田町Pは母親委員会組織があり、各々単位PTAで活動を行っている。

・「ピーマムむらやま」発行

《最上地区》

・定例母親委員会 一回

・地区母親委員会全員研修会年一回

講演「食」を通してののちのメッセージ

講師 三浦友加氏

（よしもと）

・クリエティブ・エージェンシー

・代表母親委員会研修及び情報交換会

（萩野学園視察・施設一休型小中一貫校）

・「母親委員会だより」発行

《米沢市》

・定例母親委員会 四回

・研修会「ポーセラーツ」

・講演会「思春期の子どもの繋がり方」

講師 佐藤 学氏

《東置賜地区》

・地区P代表母親委員1名が県P母親委員会に出席しています。

《西置賜地区》

・定例母親委員会 二回

・昔語り研修会

・母親委員会だより発行

・地区P交流会への参加協力

《鶴岡市》

・母親委員会 二回

・第一回（活動方針、情報交換、研修会、等）

・第二回 研修 「読み聞かせボランティア本の宝箱」に学ぶ

・朝陽第一小図書スペース見学

・読み聞かせについて

「知る・見る・聞く」

・ブロック会議 三回

・母親委員会だより

《東田川郡》

・定例母親委員会 二回

（ランチを食べながら会食）

・活動報告

・情報交換等

《酒田飽海》

・母親委員長等会議 二回

・第一回 情報交換

・第二回 講演「子どもの読書 読み聞かせについて」

講師 佐藤敏行氏

（酒田市立図書館副館長）

講師 加藤美穂子氏

・「子どもの読書サポートアシード」

・「研修報告」発行

・酒田飽海PTA研修大会への協力

「児童生徒のネットモラルの向上に向けたPTAの役割」

～スマホ依存・ネットトラブル・いじめ対策を考えて～

山形県教育委員会との教育懇談会は、平成13年度から高等学校PTA連合会と合同で開催されてきましたが、今年度初めて“バズセッション”の形式で開催しました。それぞれのグループで、参加者全員が意見発表や情報交換ができ、有意義な学びの場となりました。各代表から話題提供をしていただいた後、話し合いの視点に基づきグループごと懇談を深めました。

今、子どもたちを取り巻く環境は、高度情報化社会の中で必要な物やサービスは何でも手に入り、自由で便利である反面、集団との関係は薄れ、価値基準や判断基準は個々人が決める「個人化」の傾向が強くなっています。こうした中でスマートフォンが子どもたちの間にも普及してきたため、新たないじめや不登校などの問題行動が増加し、基本的な生活習慣の乱れ、規範意識や学ぶ意欲の低下が指摘されています。

これからの次代を担う子どもたちが、心身ともに健康で逞しく、豊かな社会性を身につけた人間に成長するために何ができるのか、家庭・学校・地域が緊密に連携しながら、真剣にネット社会と向き合い、有効な対策を講ずる必要があります。

① 話題提供：佐野 晃 氏

「実態把握」

- 生活習慣とスマホ利用について

「実態」

- スマホの利用で減った時間は、勉強・睡眠・読書・家事手洗い・家族懇談。
- 「家庭での約束の必要性」
- 子どもの自主性をふまえる必要あり
- 外部接続への利用に気をつける
- 利用時間(食事中・歩行中等はしない)
- マナーや規範を守ること

② 話題提供：笹原 修 氏

「メディアモラル講演会」

- ルール守れる？
- 依存しないと切り切れる？
- そもそもネットは規範意識が低い世界。トラブルに巻き込まれてしまえば警察の力を借りずに抜け出すことはできない。
- ネットは自己責任が原則
- ネットは大人の道具と考える
- 《ネット使用に必要な3つの力》
- 「判断力・自制心・責任力」

③ 話題提供：新聞徳次郎 氏

「大人が支えるインターネット セーフティの推進」 ～秋田県の実況～

- 子どもがインターネットを健全に利用できるよう、家庭教育の課題の一つととらえ、複数の取組方策により民間等々と協働で推進。
- ・パンフレットを作成し配布
- ・地域に「少し詳しい大人」を増やす
- ・学習機会の提供(出前講座)
- ・秋田の新聞社との協働による啓発
- ・PRキャラクター「うまホ」活用

視点1 スマホ依存・ネットトラブル・いじめなどをなくすために、家庭・学校が共にネット社会の現状を理解し有効な手段や方法について考える。

- いじめはネット上でなくても発生している。SNSが原因の一つではあるが、別物と考える。いじめについて指導する。
- つながり過剰重視型社会の中で生活している子どもたちは、「繋がり」「絆」について怖いと感じ苦痛に思っている。改めて「繋がり」「絆」の教育をする必要がある。
- どんな事をすると犯罪になるのか、親でも詳しく理解していないため、親子で学ぶ必要がある。
- 小・中・高、それぞれにあった指導が必要である。
- 家庭・学校だけでなく、市や県でも統一した指導をする。
- ルールを作るだけでなく、守るためのシステム作りが必要である。

視点2 ネット社会の中で子どもたちの「正しく情報を伝達・収集できる力」を高めるために、家庭と学校が連携してできることを考える。

- ・教育は学校毎に実施しているが温度差がある。学校同士コミュニケーションを図り、統一した教育を行う。
- ・社会の危険に巻き込まれないために、トラブル防止や法律に基づいた講演会を行う。
- ・ネット社会→“ネット”だけでなく“社会”についても対話をする。
- ・年齢を問わず、また、学校・家庭・地域の枠を越え、企業や会社等とも連携しシステムを講ずる。
- ・日進月歩の情報社会に対応し、その時に必要な対策をたてる。親・PTAは「直ぐに実行する力」を持つ。



まとめ

ネット社会の現在、子どもが情報機器を活用する機会が増えているので、スマホ等情報機器を持たせる前にルールを決め、守らせる事が大事である。ネットトラブルは、犯罪に繋がる恐れがある事を親が知り、子どもに教えていく必要がある。家庭・学校が常にどんなトラブルがあるのか情報収集をして、親・子ども・先生それぞれがコミュニケーションを図り子どもたちを守る必要がある。

感想

参加した方の意見や体験を聞き、意識を高める事ができた。学んだからと満足する事無く、どんなトラブルがあるのか今後も継続して情報を得る必要があると感じた。もし、子どもがトラブルにあっても、すぐ話せるような親子関係を築く事が大切だと思った。

県PTA連合会理事 副母親委員長 丸山さつき

親子で読書 深める絆

～本を読む子は かならず伸びる～



山形県PTA連合会では、親子読書をととして生涯学習を進め、親子で学び、親子でコミュニケーションを活性化することにより、親子の絆が一層深まり、子どもの心が豊かになることを願い、運動を推進しています。

親子読書・地域の活動

PTA読み聞かせと親子読書

上山市立西郷第一小学校PTA

母親委員長 鈴木奈保子

五年前から読み聞かせの活動を行っています。最初は、読み聞かせボランティアとしてお母さんたち数名での出発でしたが、徐々に増えてきました。

現在は、お母さんたちだけでなくお父さんたちやPTAOBの方、更には地域におられる昔話の語り部の方にも協力をいただき総勢二〇名近くに増えてきました。

五年にもなると同じ本にならないよう、お母さんやお父さんが上山市立図書館まで出かけて本を探してくる大変さもあります。

でも、子どもたちに何を読み聞かせ何を伝えたいかという大事な作業を先生だけでなく親も参加しているんだなと感じるようになりました。

そんな意味でやりがいも生まれ、クリスマス近くなるとサンタの格好で、ハロウィンの月は帽子とマントを付けて読み聞かせをしてくれるお父さんもいます。

そして秋には全校で親子読書に取り組み、今年はPTAのアウトメ

ディアとタイアップして行うことができました。

親子読書の感想から

・いろいろな本を読んで楽しいお話や感動するお話がありました。お父さんから読んでもらったことも、読んで後に感想を話したことも楽しかったです。

四年児童

・アウトメディアということもあって、集中して読書をしていました。妹たちも一緒に読んで、みんなで楽しくできたのでよかったです。

一年保護者より

本が大好きな子どもを育てるために

米沢市立北部小学校PTA

1 読み聞かせの取組

子どもたちを本に親しませるために、PTA母親委員会が中心となり「ブックママによる読み聞かせ」に取り組んでいます。年間8回の読み聞かせの日には、卒業生の保護者や地域の方にも協力していただき、全てのクラスで素敵な時間が流れています。子どもたちが心から楽しみにしている取組になっています。

2 親子で「ノーマディア・アウトメディア」の取組

学校と家庭が協力しながら「ノーマディア・アウトメディアウィーク」の取組を進めています。実施後

の感想の中で、メディアから離れた時間の活用方法として「親子で読書をする」という取組が紹介されました。本を真ん中にして親子のコミュニケーションをさらに深める素敵な工夫として多くの家庭に広がっています。

3 親子読書の取組

「秋の夜長」の時期、学校の読書月間に合わせて「親子読書」の取組を進めています。二週間の期間中は、一人二冊ずつ本を貸し出していただき、親子でじっくりと本に親しめるようにしています。終了後の感想の中には「親子の話題が広がった」「親子のかわりを耕す取組である」「読書月間以外の時期にも取り組みたい」など前向きなものがありました。



親子読書の活動について

鶴岡市立羽黒第三小学校

母親委員会委員長 小鷹 望

学校に隣接する広瀬地区地域活動

センターの図書室、児童図書を有効に活用させていただいています。また、各学年から二名ずつの母親委員が選出されており、朝読書の時間に「親子読書」の活動をしています。

【学校での紙芝居、本の読み聞かせ】

朝読書のわずかな時間を利用して読み聞かせ。子どもたちも食い入るように、真剣に聞いてくれました。



【広瀬地区地域活動センターで本の貸し出し】



「親子読書への取り組み」

天童市立荒谷小学校

子育て支援委員長

山川 恭子

平成二十七年荒谷小学校のPTA重点運動として、「親子あったか運動」と「親子読書」を掲げております。「親子読書」に取り組み、読



書をきっかけとして親子のコミュニケーション作りをしていきたいと考え

子どもは年齢に応じて、各学年で工夫しながら取り組んでいくこととし、年度初めに活動内容等話し合い、一年間を通して活動していけるようスタート致しました。

親が子どもに読み聞かせたり、同じ本を親子で読んだり、子どもが親に読んでほしい本を選び親が子どもに読みたい本を選んだりしてそれぞれの感想を話し合う等「読書」をきっかけとして、親子のコミュニケーションを深めることを推進しております。

それぞれの取り組みを学年行事で発表したり、毎日の生活カード等で取り組んだり、各々の学年に合ったやり方で活動を継続していこうと考えております。「親子あったか運動」で取り組んでいる「アウトメディア運動」と連動し、テレビやゲームから離れた時間を「読書」にあててくださる家庭も多くございます。

多忙な日常生活の中で、子どもとゆつくり向き合う時間が取れない家庭でも、この活動をきっかけに、少しでも親子で同じ時間を共有することができ、子どもも親も心にゆとりが持てればと思います。

小学校に入り自分で本を読めるようになって、親子で一緒に読んだ時のうれしそうな子どもの顔を見ると、これからも続けていきたいと痛切に感じております。今後も学校・家庭で連携し継続して取り組んで参りたいと思います。



市を挙げての読書への取り組み

く読書シテイむらやまの実践

村山市立楯岡中学校

教頭 小野 博史

1 村山市の取り組み

村山市は平成二十二年十月に、全国の自治体としてはたいへん珍しい『読書シテイむらやま宣言』を掲げた。市全体で読書に取り組もうというものである。その中で小中学生にかかわる代表的な取り組みが、「はじめの一冊」と「飛躍の一冊」であ

る。「はじめの一冊」は小学一年生全員に、「飛躍の一冊」は中学一年生全員に対して、一人に一冊ずつ本をプレゼントしている。贈る本はリストの中から子どもたちが選んだもので、本を選ぶ段階から読書への関心を高める取り組みになっている。また、親子読書に向けた取り組みも行っている。

妊娠中の女性を対象にした『プレママの絵本教室』で、生まれてくる赤ちゃんのためにオリジナル絵本を手作りすることで、親子で本に親しむきっかけ作りとなっている。

2 成果

村山市の小中学生の読書量の目安として、学校図書館の一人あたりの貸出冊数に着目してみた。全国的なデータが見つからなかつたので、インターネット上で見つけた他の自治体と比較してみると、下の表のように格段に多いことがわかった。各学校やPTAとしての独自の取り組みの積み重ねもあるだろうが、読書シテイとしての取り組みが大きく功を奏していることが推測される数字である。

学校種	村山市	仙台市	金沢市	宝塚市	北広島市
小学校	194.2	32.4	60.5	41.9	24.1
中学校	37.4	6.2	8.9	3.8	5.5

戸沢の「わ」(「和」)をモチーフに、地域と連携したPTA活動

村山市立戸沢小学校 PTA会長 佐藤 勇二

一、はじめに

戸沢地域は、村山市の西部に聳える葉山のふもとに広がる田園・里山地帯で、長善寺・白鳥・大槇・稲下・樽石の五つの地区からなり、地域人口は約三、三〇〇人を数える。

この地域には、旧村の三つの村に尋常小学校が設立され、それらが昭和十四年に統合され、現在の戸沢小学校へと続いている。

今年度は、児童数百四十四名、教職員数二十一名、PTA会員数百十五名で、「いのち輝く子どもたちを育てるために、積極的に活動するPTA」をスローガンに掲げ、活動している。

◇「戸沢地域計画」

戸沢地域では、平成二十一年に地域計画を策定したが、その際にもPTAのメンバーが策定に関わり、一緒になって地域計画を練り上げた。「5地区の戸沢」を「5 to the Way」と横文字風に表し、これを

「わの地域に向かって」(5つの地域が融和する地域へ)と訳した。

二、特色ある取り組みについて

(1) 戸沢の「わ(和)」を基調とし、地域と連携したPTA活動

戸沢地域計画の中で、戸沢地域は、5つの「わ」(和)日本の伝統・和の心、環々環境に配慮、輪々ネットワーク・つながりを大切に、話々会話・対話を重視・話題の絶えない、ワ々ワールド・国際化・地域のグローバル化)を目指すこととしており、戸沢小PTAとしても、これと足並みを揃えた活動を行っている。

(2) 地元言葉(「方言」と郷土素材を活用した取り組み

① 「方言番付」と「地域の名所・名品百選番付」

土地言葉(「方言」)が次第に使われなくなっていることから、創立七十年記念事業として「未来に残したい七十の方言アンケート」を各家庭を対象に行い、その情報をもとに

「方言番付」にした。地区公民館と一緒にになって番付表にまとめ、地域に配布した。

これは、テレビや新聞にも取り上げられるなど、反響の大きい事業となった。

また、PTA

A研修部が中心になり「地域の名所・名品番付」を作成し、地域に配布した。地域のいいところ・いいものを見える化すること、子どもたちが地域に愛着をもつことにつながるのではないかと考えから行われた事業であった。

② 山形版「山の掟」「さんなね七条」の作成と配布

「地元の方言×基本的生活習慣」(「会津藩 山の掟」をモデルに、家庭教育訓「山形版山の掟」さんなね七条)を作成し、地元の方言に親しみながら基本的な生活習慣を身につけさせる取り組みを展開している。

(3) 二十年以上続ける「母校訪問」

卒業生とのネットワークづくりと郷土のほこり
戸沢小版の「ようこそ先輩」ともいえる、各界で活躍する卒業生を講師に迎え、保護者と児童、教員が一



緒に話を聞く講演会「母校訪問」を二十年以上継続している。

世紀の発見といわれた「長屋王の木簡」の発見者である先輩の寺崎保広さん(当時、奈良文化財研究所主任研究官/現奈良大学文学部教授)の文章が国語の教科書に掲載されたことがきっかけであるが、これまで四半世紀も続いていることは、本校の誇りでもあり、今や伝統といえるものに成長している。

三、取り組みの成果と今後の方向性

(1) 地域と同じベクトルづくり

戸沢地域の将来計画である「地域計画」にも沿った形でPTA活動を展開することで、学校と地域が同じ方向を向いた地域づくり実践活動が行われている。また、地域と連携し、一体感のある取り組みを行うことで、学校のPTA活動が、戸沢地域全体の活性化にもつながっている。

(2) 地域との協働事業の更なる積極的展開

児童数が微減傾向にあり、それに伴い保護者世代の数も減少している。地域人口も減少している中で、若い世代が多いPTAが、地域の担い手として、地域と情報をいかに共有し、地域と協働事業をいかに展開できるかが今後の課題である。

一、はじめに

県教育委員会ほか学校教育関係者のご支援により優良PTA文部科学大臣表彰を受賞することができましたことに心より感謝申し上げます。

米沢四中の学区内には、市役所や県の置賜総合支庁などの官公庁や郊外型の店舗も多く立地しており、新興住宅地も広がっています。また、県営、市営の住宅が多く点在しているため、人の出入りも激しく、地域とのつながりを深めることも活動の課題となっています。

また、東日本大震災後の耐震検査で校舎の使用が不可能という診断が出て、約四年間生徒たちは仮校舎での生活と近隣施設を借用しての活動を余儀なくされました。

二、特色ある取組みについて

仮設校舎は、全校生が集まれるスペースもなく、授業や行事などで不便な面が多く、PTAの活動もこれ

まで以上の工夫が必要となりました。

(1) 学校教育に関する支援

① 自由参観日(年七回)への参加開かれた学校、そして家庭と学校との連携を深めるために自由授業を参観できる日数を増やし、役員が積極的に参加し、参観者を増やしていききました。

② 三学年生徒に対する学習支援学習に不安を抱えている生徒や教室不適応の生徒に対して、先生方の指導の支援をすべく、三年生の役員を中心に数学の学習支援を行いました。

③ 学校行事や生徒活動への支援市営体育館に移動して活動した文化祭の時は、生徒の練習時間を確保するため、夜間PTAの役員を中心に会場設営を行いました。

また、合唱コンクールを盛り上げるべく、母親委員を中心に保護者と教職員からなる合唱団

がコンクールで合唱を披露しています。

(2) 家庭教育に関する支援

前述のとおり、引越してきた人も多い地域であるため、親同士の交流の場や子育てについて学習する場を毎年開催し、参加者を広く募っています。

① 教育講演会等の開催

平成二十六年度は以下の2つの講演会を開催しました。

◇研修部主催で

演題「ネットの上手な歩かせ方」

講師 金 俊次 氏

◇窪田小PTAとの共催で

演題「学力向上！子どもが自分で弁当を作る」

講師 竹下 和男 氏

(3) 地域における健全育成活動

① 交通安全立哨・挨拶運動

生活安全全部員が登校時、学校近くの交差点で実施。

② 長期休業中の巡回

生活安全全部員が長期休業中の夜間数回、学区内の大型店舗を巡視活動。

③ 休日を利用した親子行事

各学年のPTA役員が企画運営し、学年独自の行事を開催。活発な専門部の活動

(4) 研修部、生活安全部の活動の他、

◇広報部

PTA広報誌の発行(年5回)。

◇母親委員会

制服のリユース活動と、たよりの発行による子育ての支援。

三、成果と今後の方向性

校舎が新しくなったこともあり、学校に足を運ぶ保護者が増えてきました。これを機に、さらに保護者が学校に足を運んだり、学校と家庭との橋渡し役になったりするような活動を考えていきたいと思っています。

また、地域全体の教育力や人とのつながりを強化するためには、小学校と中学校の連携がこれまでに以上に必要になってくると思われます。昨年度実施した小中が連携しての講演会などは今後の活動のヒントになるものと思われれます。

さらに、専門部の活動などはいずれも活発に行われていますが、生徒の変容につながっていないものや家庭の要望に合わないものなども出てきています。これまでの活動を大切にしなが、心ひかれる活動を検討していかなければならないと考えています。

優良PTA文部科学大臣表彰

地域における青少年の健全育成を図るための活動

米沢市立第四中学校 教育振興会長 長澤 文紀

この度、平成二十七年度「日本PTA全国協議会会長表彰」の受賞にあたり、その礎を築きあげていただいた諸先輩の方々、先生、地域の皆様に心より感謝申し上げます。今後保護者・先生・地域の皆様と協力しながら、すべては子どもたちのために更なる充実したPTA活動に進じてまいります。

一 はじめに

本校は、今年で創立六十八周年を迎えた歴史と伝統が積み重ねられた学校である。建学精神の「一つ心」は、校歌の三番の一節に「……明日の明るき希望を持って、一つ心にいましまん」と歌われている。さらに、「一つ心のち輝く金井中」と学校教育目標にも掲げられるなど建学の精神をととても大切にしている。

昭和四十五年度卒業生が記念として中庭の池の東側に「一つ心」と刻まれた石碑を建立している。「家族の心が常に一つであり、子どもたちの心も常に一つ、そして先生方も地域の方々も心が一つである」という思いを込めたものである。金井中学校五十周年記念誌の中に、当時の原田教育後援会会長が「教育の里 金井、五十周年に思う」として、「五十周年の間に培われた『一つ心』の精神は地区民の関心を引き込み、市内はもちろん、県内に誇りうる伝統を生み、スポーツにそしてあらゆる活動にその実績を見ることができま

した」と書かれている。つまり、『一つ心』の精神は金井中学校の創設の頃から大切にされてきたものである。

二 特色ある取組みについて

① あいさつへの取組み

生徒会では「さわやかなあいさつをしよう」という取組みを行っている。その活動に、PTAのサポートとして学期ごとに約1週間ずつ、朝のあいさつ活動を生活指導部が中心となって学区内に立ち、子どもたち

表者が中心となって運搬用の車を出して活動のサポートをしている。保護者と一緒に活動するので、生徒たちも意欲的に活動をおこなっており、身近な資源リサイクルの重要性を学ぶとともに資源回収で得た収益金は生徒会活動や備品購入などに役立てられている。

④ 地区全体でのネットモラル研修会

十月二十六日(月)に宮城教育大学の鶴川義弘教授をお迎えしてインターネットにおけるモラル・危険性を講演していただいた。この講演会

日本PTA全国協議会会長表彰

「一つ心」と地域のつながりを大切にしたPTA活動

山形市立金井中学校PTA会長 三 沢 大 介

への声かけと登校指導をおこなっている。

② 下校時の安全指導

生徒の下校時刻に合わせて保護者が当番を決め、毎月車で巡回しながら生徒たちの下校時の安全と地域内の安全確認をおこなっている。

③ 資源回収への取組み

本校では、毎年八月の最終土曜日に資源回収をおこなっている。地区班ごとの活動になるが、生徒たちだけでは全ての資源物を運ぶのが難しいところもあるので、地区委員の代

は中学校の保護者だけでなく、金井地区の幼稚園、保育園、小学校などにも呼びかけ、保護者がどのように理解してICTを子どもに使用させるか、また使用させる場合のルールを考えてもらうために開催した。午後7時からの講演にもかかわらず、多くの方々から参加をしていただき、大変有意義なものとなった。

⑤ 保健体育部講演会

十一月十九日(木)モンテディオ山形に所属した元サッカー選手である越智隼人氏をお招きし「スポーツか

ら学ぶリスベクト」成長期に気をつけたい怪我」というテーマのもと、運動選手として日常気をつけるべきこと、食事、休養、怪我への対応など運動に関する様々な話をしていただいた。

⑥ 部活動後援会の活動

後援会の役員は、前年度PTA役員と新年度役員が協力しながら生徒たちの活動をサポートしています。市中総体や県中総体、吹奏楽コンクールでは、「一つ心」「飛翔」と描かれたのぼり旗を持って応援してくださる姿に元気をもらい、生徒たちは最後まで粘り強く試合をしたり演奏したりすることができた。

三 今後に向けて

本校は旧金井村を中心にしてきたこともあり、これまでの入学生は金井小学校卒業生がほとんどであった。しかし近年嶋地区が宅地開発され、第九小学校の卒業生も入学するようになり、全国的に生徒数が減少しているなかで、今後しばらくは生徒数が増えていく学校である。金井地区と新しく広がった嶋北地区との協力、そして幼稚園・小学校・中学校との連携・協力をどのように醸成していくのかを考えながら、子どもたちの事を第一に考え、より良いPTA組織を形成し、さらに充実したPTA活動を作り上げていく動きが始まったばかりである。

一 はじめに

本学区は、ＪＲ左沢線と国道一一二号線沿いの東西に細長く、朝夕を除けば静かな田園地帯である。昔は稲作を中心とした純農村であったが、江俣、陣場地区の宅地化により児童数が増加し始め、近年は、嶋地区の開発により児童数がさらに増加している。

「教育の里金井」と呼ばれるほど、地域の方々が学校教育に協力的であり、PTA活動においても同様である。PTAの組織としては、専門部（広報部、研修部、生活指導部、母親委員会）と学年PTAがあり、それぞれの計画により活動に取り組んでいる。

現在児童数七九三名、PTA会員数六二〇名の大規模校であり、今後児童数増加が見込まれている。

二 特色ある取り組みについて

山形市や山形県のPTA連合会でも、ネットモラル向上の取り組みがなされている。そこで、本校PTAでも学校と連携して、「アウトメディア」に取り組んでみた。

●アウトメディアとは

電子メディア機器（ゲーム、携帯、テレビ、パソコン等）に触れる時間を減らすことである。電子メディア機器を有効に活用することで、過度

の接触を減らし、自分自身の時間、家族団らん、人とのつながりの時間を大切にしようとするものである。

●なぜ、アウトメディアに取り組むのか
今の子どもたちを取り巻くメディア環境は日々変化し、子どもたちの体や心の発達に大きな影響を及ぼしている。金井小・中学校PTAでは、合同で「メディアと健康」をテーマにして平成二〇年度より、子どもたちの健康課題解決に向けて、取り組んできた。

日本PTA全国協議会会長表彰

アウトメディアへの取り組み

山形市立金井小学校PTA会長 原田 誠

電子メディアの誤った使い方、長時間の使用による心や体、生活リズムに与える影響、人間関係へのマイナスの影響などさまざまな状況から、電子メディアを有効に活用する力を育てる必要性を感じてきた。そこで、子ども自身が自分の生活を見つめ直し、主体的にテレビやゲーム、パソコン、携帯、スマートフォンに触れる時間をコントロールしていく力を身に付け、自立していくことができるように、学校とも連携しながら

「いきいき週間」アウトメディアにチャレンジ」に取り組んだ。

●実際の取り組みから

アウトメディアの取り組みは、主として家庭で行うことが多く、家庭の協力が不可欠である。

つまり、子どもたちだけが実践するのではなく、保護者も実践することになる。

平成二十六年年度の取り組みは、二月二日（月）から六日（金）を「いきいき週間」とし、親子で行った。まず、

「我が家のルール」を確認し、三つのコースから選択して取り組んだ。

家族でチャレンジしたコースの割合は、学校全体で、「たまたごコース（Aコース）」三五％、「ひよこコース（Bコース）」四四％、「にわとりコース（Cコース）」二一％であった。

また、児童の中で「インターネットにつながるICT機器（ゲーム機を含む）」を所有している割合は、六九・八％であった。一年生でも、

五二・七％と半数以上が所有していた。

三 成果と今後の方向性

成果としては、以下の点が挙げられる。

○家族で、自分たちの生活を見つめ直すきっかけとなり、ゲームの時間を決める等生活にめりはりができた。
○子どもとの会話が多くなり、家族団らんや子どもが外遊びをする機会が増えた。

○我が家のルール作りをすることによって、メディアとの過度の接触を減らし、自分自身の時間や家族団らん、人とのつながりを大切にすることができるようになった。

このような成果が見られたので、本校PTAでは、継続し計画的に取り組んでいくことにした。今年度は、学期に一回実施している。今後とも、金井中学校PTAとも連携を図りながら進めていきたい。

第47回日本PTA東北ブロック研究大会亘理・山元大会に参加して



山形県PTA連合会
副会長

設 楽 伸 治

十月三日、四日の二日間「蘇る大地 ふるさとの復興と共に 子どもたちに明るい未来を！」を大会主題に掲げ、第四十七回日本PTA東北ブロック研究大会亘理・山元大会が開催されました。

今回は、宮城県亘理・山元町内、七会場に分かれ分科会が開催されました。

第二分科会基調講演は、NPOみやぎ・せんだい子どもの丘理事長・平山乾悦氏が、遊ばない子ども・遊べない子どもが増えている現状にふれ、小・中学校の不登校児が十二万人以上になる問題は、「あそび」が子どもにはとても大切であることを話されました。親は、余裕を持って子どもと接して、しっかりと子ども

の目を見て話を聞き、子どもの気持ちと寄り添うことが大切で、社会の構造の変化で幸せの物差しが変わったとしても、「わかってくれる人のいる場所」「必要としてくれる場所」のある地域づくりが普遍的に必要なであり、担任の先生の代わりでもない、その子の保護者の代わりでもない「地域の大人」として何ができるかを考えることが必要であること話をされました。人を引き付ける話しぶりに、身を乗り出して聞いてしまいました。

その後のパネルディスカッションでは、山形県・岩手県・宮城県の三校のPTA活動発表が行われ、グループに分かれての討議を行いました。

二日目の記念講演は、東北福祉大出身、プロ野球阪神タイガースで活躍した金本知憲氏。努力を重ねて勝ち取った栄光の軌跡について、女性アナウンサーと対談、最後に、来年の去就について話されました。

東日本大震災から四年を経過し、少しずつ力強く足取りを進めて震災を乗り越えて復興されている様子は、まだ道半ばとはいえ、ひとの絆が感じられ、これからのPTA活動に力を与えられた研究大会でした。

第63回日本PTA全国研究大会札幌大会に参加して



山形県PTA連合会
副会長

近 野 信 広

八月二十一日、二十二日の二日間の日程で、緑豊かな北の大地札幌で第六十三回日本PTA全国研究大会札幌大会が開催されました。「ひろがれ！子の未来、つながれ！親力」今札幌から始まるこれからのPTA」と題して、全国各地から約八千名のPTA会員が集い、さまざまな視点から教育の課題について協議し、交流を深めることができました。

一日目は、大通り公園を中心に札幌市内で全十分科会が開催されました。特別第1分科会では、札幌市在住で現在二児の母でもある、女優・タレントの千堂あきほさんを対談講師とし、子どもたちが日常、何を考え、どのように進みどんな大人になろうとしているのか、どんなことに悩みどのよう

な夢に向かっているのか、そして社会に対してどのような期待をもっているのか等を、直接五名の中学生と意見交換し、未来（ゆめ）の実現のために、自分の芸能界での成功、失敗談を交えて、大変あつく、熱弁をふるっておられました。

また、二日目の全体会では、「北の国から」脚本家である有名な倉本聰氏による「あなたは子どもたちの想像力を育てていますか」と題した記念講演を聞くことができました。幼少から東大文学部卒業を経て、シナリオ作家になるまでの経験談をもとに彼の「強い信念による生き方」を聞くことができました。

二人のお話に大変共鳴を受けたのはもちろんですが、共通点として私なりに感じたのは、自分自身が精一杯生きてきたこと、それを子どもたちに示すこと、そのことこそが教育においてなにより大切なことなのだということでした。きわめて単純なことですが、落雷を浴びたように体中に電撃が走った感じがしました。忙しい日々を、忘れてしまっていたことを、本大会を通じて、改めて思い起こされたような気がします。今研究大会で感じた熱い思いを忘れぬよう、子どもたちの明るい未来のために、今後も活動していきたいと思えます。

栄えある表彰 おめでとうございます

今年度、県PTAや郡・市PTA、単位PTA活動にご尽力され、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られました。全国小中学校PTA広報紙コンクールも上位入賞しました。おめでとうございます。(敬称略)

平成27年度 文部科学大臣表彰

村山市立戸沢小学校PTA
米沢市立第四中学校教育振興会

平成27年度 日本PTA全国協議会会長表彰

〈団体表彰〉

山形市立金井小学校PTA
山形市立金井中学校PTA

〈個人表彰〉

齋藤 敏博(前県P連副会長・米沢北部小)
渡部 宏一(前県P連副会長・朝陽六小)
鈴木 渉(前県P連副会長・楯岡中)
高橋 裕美(前県P母親委員長・山形九中)

平成27年度 東北PTA連絡協議会会長表彰

〈団体表彰〉

新庄市立升形小学校PTA
川西町立小松小学校PTA

〈感謝状〉

新関徳次郎(前山形県PTA連合会会長)

〈表彰状〉平成26年度理事・監事

高橋淳一郎(上山市P・上山小)
三宅 和広(天童・東村山地区P・天童二中)
田宮 忠和(西村山P・河北中)
佐藤 文一(最上地区P・新庄小)
鈴木 聡(東置賜地区P・宮内小)
菅野 邦彰(西置賜地区P・飯豊一小)
佐藤 修(東田川郡P・余目中)
佐藤 正光(酒田飽海P・酒田一中)
大崎 理恵(天童・東村山地区P・荒谷小)
片菊 和芳(天童・東村山地区P・荒谷小)

平成27年度 優良PTA山形県教育委員会表彰団体

村山市立戸沢小学校PTA
米沢市立第四中学校教育振興会
山形市立金井小学校PTA
山形市立金井中学校PTA
新庄市立升形小学校PTA
川西町立小松小学校PTA
戸沢村立戸沢中学校PTA
鶴岡市立鶴岡第一中学校PTA

平成27年度 山形県PTA連合会会長表彰

〈感謝状〉平成26年度県P連役員退任者

新関徳次郎(山形市P・山形八中)
齋藤 敏博(米沢市P・米沢北部小)

渡部 宏一(鶴岡市P・朝陽六小)
鈴木 渉(北村山P・楯岡中)
高橋淳一郎(上山市P・上山小)
三宅 和広(天童・東村山地区P・天童二中)
田宮 忠和(西村山P・河北中)
佐藤 文一(最上地区P・新庄小)
鈴木 聡(東置賜地区P・宮内小)
菅野 邦彰(西置賜地区P・飯豊一小)
佐藤 修(東田川郡P・余目中)
佐藤 正光(酒田飽海P・酒田一中)
庄司 健二(天童・東村山地区P・山辺小校長)
大崎 理恵(天童・東村山地区P・荒谷小)
片菊 和芳(天童・東村山地区P・荒谷小)

〈表彰状〉郡・市PTA連合会より推薦

杉山 宏行(山形市P) 土田 将昭(酒田飽海P)
後藤 章洋(山形市P) 長谷部貞紀(酒田飽海P)
山口 和久(山形市P) 佐藤みどり(酒田飽海P)
大滝 昭浩(山形市P) 菅 康博(最上地区P)
大瀧 尚(東田川郡P) 八鍬 健一(最上地区P)
松田 文明(西村山P) 難波 一之(鶴岡市P)
増川喜与志(北村山P)

平成27年度 第37回全国小中学校PTA広報紙コンクール

〈日本PTA全国協議会会長賞〉

酒田市立松原小学校PTA(まつばら)

〈日本PTA奨励賞〉

鶴岡市立大泉小学校PTA(穂なみ)
鶴岡市立朝陽第六小学校PTA(緑のつばさ)
鶴岡市立西郷小学校PTA(西郷)
最上町立大堀小学校PTA(清流)
東根市立東根小学校PTA(けやきの窓)
米沢市立南原中学校父母と教師の会(こぶし)
鶴岡市立鶴岡第一中学校PTA(鶴朋)
酒田市立第四中学校PTA(雄飛)
最上町立最上中学校PTA(PTAだより)

〈山形県PTA会長賞〉

遊佐町立高瀬小学校PTA(たかせ)
酒田市立十坂小学校PTA(とさか)
酒田市立琢成小学校PTA(琢成)
酒田市立宮野浦小学校PTA(浦のあさ)
鶴岡市立朝陽第一小学校致道会(致道)
東根市立高崎小学校PTA(くろぶし)
新庄市立新庄小学校PTA(いつくしみ)
山形市立金井中学校PTA(飛翔)
山形市立蔵王第一中学校PTA(蔵王嶺)

平成26年度 日本PTA国内研修に参加して

「ありがとう」

山形市立第八中学校

新関 峻

この度、渡嘉敷島に行った学生の中で私が一番恵まれていたと確信している。なぜならば、素晴らしい仲間たちと出会えたからだ。渡嘉敷島にて出会った全国の学生や島の住民の方々は例外なく優しさに満ち溢れていた。そんな優しさにまつわるエピソードを一つ紹介させて頂きたい。

村内散策の際、どうしても自分たちの力だけでは、どうにもならない問題が起こった。その問題のことで頭を悩ませていたとき、ちょうど一人の島民の方が通りかかった。私はハンターよろしく彼に飛び掛かった。(比喩的な意味合いで) 私はそのとき多分「この問題をなんとか解かねばならない」という観念に頭が支配され、彼に対する礼儀まで意識できていなかったと思う。そんな礼儀知らずで不躰な私に彼はやさしく丁寧に回答してくだ

さったのだ。私はあまりの感動に胸が躍り始めた。なぜなら私は、あんなにも丁寧な回答が返ってくるとは思ってもいなかったのだ。私は、感謝の気持ちに包まれ、胸のあたりがほっこりと温かくなった。それと同時に自分の今までの行動を恥じた。ああ、なんと無礼な態度を私はとってしまったのだろうか。暖かくなった心に冬が到来した。それは山形の冬と大差なかった。ただ冷たく、無情な、あの冬と。彼に直接詫びることは大方不可能なことだろう。が、しかし、それからというもの、私は心を入れ替え生活しようと心掛けた。この行為は彼に伝わりはしないが、自分なりの謝罪だ。

この度の研修に自分に参加させていただいた山形県PTA連合会には感謝してもしきれない。他にも様々な人がこの研修に携わっていた。その方々への感謝を忘れず、日々精進していきたい。誠にありがとうございました。

「喜努哀楽」

天童市立第二中学校

阿部 和輝

三月二十六日、私にとって「喜努哀楽」な四日間が始まった。国内研修には全国各地から中学生が集まる

と聞いており、他県の人と友達になつて話せるのが不安でしかなかった。だが、自分から積極的に話したことですぐに打ち解け、友達がたくさんできた。

一日目のグループ作りでは、山形県の位置、有名な果物、観光地を紹介し、興味を持ってくれる人がたくさんいた。それに、他県のことも知ることができた。グループの中には埼玉県秩父郡鹿野町からきた人がいた。秩父郡は有名な漫画のモデルとなった所で、僕は知っていた。彼女とは漫画の話から徐々に仲良くなつていった。

「喜」を感じたのは、村内散策や野外炊事時だった。班の人と協力し、共に作ったカレーはとても美味しかった。作る時には具材の違いや手順が違っていたことも、とても興味深いことだった。

「楽」は海洋研修の時だった。アハレンビーチで大型カヌー、カヤック、スノーケリングを体験した。特に印象的だったのはキラキラと輝いている海だった。その時、渡嘉敷島の方々が自然を愛し、大切にしていることが深く伝わってきた。

「努」を実感したのは、ワークショップでのときだった。ワークショップでは、沖縄の伝統芸能「エイサー」を体験した。独特なリズム

のため覚えるのが難しく踊ることに苦勞した。何度も練習し、徐々に覚え本番を迎えたが、本番で間違えてしまった。改めてエイサーの難しさを感じると共に貴重な体験が出来たと思った。

そして「哀」を感じることとなったのは、班の人との別れである。四日間でたくさん学び、楽しんだ仲間と離れ離れになるのはとても悲しかった。だが二〇二一年の三月二十六日に再会し、沖縄でさらに想い出をつくることにした。

共に喜び、努力し、楽しみ、哀しむ。この大切さを知ったことで、これから何事にもチャレンジしていきたい。

「日本PTA国内研修で学んだこと」

天童市立第二中学校

相馬 明日香

私が国内研修で学んだことは、たくさんあります。

一つ目は、平和学習です。平和学習では、戦争のことについて話を聞きました。私が特に心に残ったのは、戦争で三百二十九名も亡くなったということです。住民を巻き込んだ地上戦で大人は軍隊に入り、子どもは沖縄に残り、女性や中学生も兵隊になったことが印象に残りました。兵

隊が足りなくなつたから女性や中学生も兵隊にされて、今の私たちは、とても幸せなんだと感じました。

「人は一度死ぬもの」と聞いて、人はいつか必ず死ぬんだから生きている今を大切に生きていきたい」と思いました。

一九四五年三月二十七日、ちょうどこの平和学習の研修をしている日、米軍上陸、渡嘉敷島戦争が始まりました。この戦争で多くの人が亡くなつてしまつたことは、すごく残念なことだと思ひ、戦争はしていいないことだと思ひました。

「三月二十三日から那覇市にすごい空襲があり、渡嘉敷島のほぼ全部焼けてしまつた。手榴弾が実際に手に渡つていたが、使い方をよく教へられていなかった。親や親戚は殺し合いをし、自分の兄弟を殺す。逃げるときは、死体の上を歩いて逃げた。」と話を聞いて、家族なのに殺し合いをしていて、嫌だなと思ひました。だから今この家族を大切にしていきたいと思ひました。

五十万船の軍隊が四月一日一斉に沖縄に来て、三百二十九名はその地域で亡くなつたことを聞いて、とても残念だと思ひました。その当時は、食料もなかったし、食料を探すために海岸に行き、見つかった人は続々と処刑されたと聞いて、食料は大事

にしなければならぬと思ひました。八月十六日終戦で渡嘉敷島に集団自決跡地ができ、私たちも集団自決跡地に行き、黙祷をしました。

二つ目は、野外炊事です。班のみんなと協力し合い、指示を出し合いながら、おいしいカレーをつくることができました。この野外炊事で班のみんなと仲良くなることができました。

三つ目は、村内散策です。島の人がとてもやさしかったのですが、島の方言みたいなのでことばの意味が分からないのもあり、おもしろかったです。風がすごく強かつたので、ふつうでこのくらい強い風なら、台風は、もっとすごい風なんだろうなと感じました。山形にはめつたに台風が来ないので、沖縄の台風はすごいんだろうなと思ひました。

四つ目は、ワークショップです。ワークショップで私はサンゴウォッチングをしました。サンゴについて話を聞いて、この先サンゴがなくなるかもと聞いて自分たちができることをしていき、この先サンゴがなくなるならないようにしていきたいと思います。この国内研修でいろいろなことを学び考えられたし、様々な県の人と仲良くなることのできたので良かったです。

仙台市PTAフェスティバル

「雨にも負けない
山形の餅つき」

山形県PTA連合会母親委員長

堀田 理恵



冷たい雨の降る中、十一月八日に仙台市PTAフェスティバルが開催

されました。山形県PTA連合会としてブースをお借りし、餅をつき、きなこ餅にして一カップにつき百円の募金をお願いしました。合計三斗の餅米を十四臼に分けてつき、子どもたちにも仕上げを手伝ってもらい、美味しい餅だと大好評でした。

いただいた募金の中から材料費を支払い、三万円を仙台市PTA協議会へ復興支援として寄付させていただきました。餅つき体験コーナーに参加してくれた子どもたちの笑顔がとても輝いていて、明るい未来を感じることができました。

山形県PTA連合会安全互助会から

安全互助会は山形県PTA連合会事業の一環として運営されています。関係各位・保護者の皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。

※近年の賠償事故件数・支払金額増加傾向の対策として、今年度から賠償補償限度額1000万円の3コースを新設しました。

下記のように安全互助会加入校のうち約4割の学校PTAが移行されています。万が一の事故に備え、是非ご検討下さい。

※子どもが自転車に乗るときはヘルメットを着用させましょう。

傷害事故1054件のうち105件が自転車での受傷です。ヘルメット着用は努力義務です。ご協力をお願い致します。

※事故の未然防止が一番大切です。

登下校や外出時は安全確認の声掛けで注意喚起し、事故防止にご協力下さい。



加入304校の内訳			
A	176	特A	99
B	14	特B	10
C	2	特C	3

傷害事故支払状況 (単位：千円)			
	件数	児童・生徒	PTA傷害
平成24年度	1,419	12,713	59
平成25年度	1,426	14,638	76
平成26年度	1,371	12,792	77
平成27年度(1月末)	1,054	10,292	57

賠償事故支払状況 (単位：千円)			
	件数	金額	
平成24年度	66	3,767	
平成25年度	87	6,254	
平成26年度	42	2,642	
平成27年度(1月末)	71	4,190	

第68回山形県PTA研修大会 鶴岡・東田川大会案内

山形県PTA連合会副会長 五十嵐 重一



来年度の山形県

PTA研修大会を、

平成二十八年十月

十五日（土）に、

鶴引スポーツセン

ターを主会場に、鶴岡市のコ

ミュニティーセンターや三川

町のなの花ホール等を分科会

場にし、鶴岡市PTA連合会

及び東田川群PTA連合会が

主管となり開催いたします。

大会主題を、『育もう 学

び続け、地域とつながり、い

のちをつなぐ子ども』家庭・

学校・地域の確かな連携を通

して』といたしました。

それは、グローバル化やメ

ディア社会、そして少子化等、

子どもを取り巻く環境が目ま

ぐるしく変化している中で、

家庭・学校・地域がつながり、

これからの時代をたくましく

生き抜く子どもを、どのよう

にして育んでいくべきかとい

う大きな課題に対して、互い

に学び合う機会にしたいと考

えたからです。

午前の分科会では、主題に

繋がる5つのテーマが設定さ

れております。

☆活動が活性化するPTA組

織と運営

☆情報メディアに積極対応す

るPTA活動

☆地域と子どものつながりを

深めるPTA活動

☆子どもの生活習慣を確立す

るPTA活動

☆子どものいのちを守るPT

A活動

地域の特徴を生かした実践

や課題克服に向け学校と連携

した取り組み等の発表やディ

スカッションを行い、テーマ

について意見交換を行います。

午後からは、全体行事やイ

タリア料理店『アル・ケッ

チャーノ』オーナーシェフ奥

田政行氏の記念講演を予定し

ております。

互いに抱える課題や意見を

出し合う事で、明日の活動に

つながる機会が生まれる研修

大会になることを願っており

ます。そのためにも、多くの

皆様のご参加とご協力を賜り

ますようお願い申し上げます。

案内いたします。

平成27年度 山形県PTA連合会役員名簿

会 長	荒井 寛	山形市PTA連合会	蔵王一中	理 事	吉村 克美	酒田飽海PTA連合会	酒田浜田小
副会長	近野 信広	山形市PTA連合会	山形十中	〃	辻 雅人	県小学校長会代表	米沢南部小
〃	佐藤 靖広	米沢市PTA連合会	米沢西部小	〃	鹿野 智	県中学校長会代表	山形四中
〃	五十嵐重一	鶴岡市PTA連合会	鶴引東小	〃	堀田 理恵	母親委員長	蔵王一中
〃	設楽 伸治	北村山PTA連合会	楯 岡 中	〃	丸山さつき	母親副委員長	米沢南原小
理 事	岩川 耕治	上市市PTA連合協議会	上山北中	監 事	尾形 吉則	山形市PTA連合会	滝 山 小
〃	笹原 修	天童・東村山地区PTA連合会	天童三中	〃	高梨 真英	西村山PTA連合会	河 北 中
〃	奥山 一喜	西村山PTA連合会	河 北 中	〃	江口 俊和	山形市PTA連合会	金 井 小
〃	上嶋 竜一	最上地区PTA協議会	新 庄 小	事務局長	村山 良光		
〃	戸田 義和	東置賜地区PTA連合会	川西中郡小	事務局員	佐藤 静子		
〃	渡邊 重信	西置賜地区PTA連絡協議会	小 国 中	事務局員	熊谷 慶子		
〃	柴田 博人	東田川郡PTA連合会	三 川 中				

おしらせ

「東日本大震災復興支援事業」の終了について

◆未曾有の被害があったあの東日本大震災は平成二十八年三月でまる五年目を迎えるようとしています。山形県PTA連合会は、この五年を一区切りとすることになりました。これまで多くの皆様からたくさんのお善意、ご協力を頂きありがとうございました。

◆震災直後は文房具などの支援物資を被災した学校に直接届け、貴重な義援金は県内に避難されてきた児童生徒を受け入れた学校（PTA）に贈呈し有意義に活用していただきました。平成二十五年からは書き損じ葉書を募集し、「支援」の形も「交流活動」に変わり、仙台市PTAフェスティバルへの参加や、小中学生・保護者約五十名で石巻市や南三陸町に訪問し交流を深めました。また、「交流支援活動」を実施する単位PTAのために補助金を交付しました。

◆被災された方々が懸命に復興に取り組んでいる様子や、支援に対する感謝の言葉、力強い表情などが報じられるたび心強く拝察しております。交流活動で直接お会いした被災地の方々も、これまでの支援に対する感謝と共に、今後も人と人との交流の機会を望まれています。

◆書き損じ葉書募集などの復興支援事業は今年度で終了しますが、今後も東日本大震災を風化させないための取組や、各単位PTAの実情に合わせた活動が継続し展開することを願っています。